

ベルマーク新聞 3月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

「善意の受け皿として活動を続けたい」

大台を達成したイトーヨーカ堂に感謝状



①左から、キリンビバレッジの佐藤執行役員、イトーヨーカ堂の小山総括マネジャー、ベルマーク財団の福島常務理事 ②財団からの感謝状を贈呈 ③橋本小のアスレチック

大手総合スーパーのイトーヨーカ堂(本社・東京)が、全国の店舗に回収BOXを置いて集めたベルマークが累計2000万点を突破し、それを記念する寄贈式が1月25日、相模原市緑区のアリオ橋本店で行われました。

イトーヨーカドー店舗でのベルマーク収集は、12年も続く息の長い社会貢献活動です。東日本大震災直後の2011年から2021年まで実施した「東北かけはしプロジェクト」の一環として回収BOXを設置し、2022年4月には「ベルマーク絆プロジェクト」を発足させました。ベルマーク協賛会社のキリンビバレッジ(ベルマーク番号54)が活動を支えてきました。

寄贈式では、イトーヨーカ堂のサステ

ナビリティ推進部の小山遊子・総括マネジャーとキリンビバレッジの佐藤龍二・執行役員から、ベルマーク財団の福島範彰・常務理事に2000万点突破の記念パネルが手渡され、福島常務理事は「皆さんの思いを大切にに使わせてもらいます」とお礼を述べました。その後、福島常務理事から小山マネジャーに感謝状が贈られました。

寄贈式の締め括りのあいさつで、小山総括マネジャーは「善意の受け皿として、これからも地域の皆さんと一緒にベルマーク運動を続けていきたい」、佐藤執行役員も「未来を担う子どもたちを応援したい」と、それぞれ語りました。



今回の寄贈式がアリオ橋本店で行われ

たのは、相模原市立橋本小学校との縁があったからです。

橋本小の児童たちは、創立50周年を迎える2023年度、学校に新しいアスレチックを作ろうと、「50周年アスレチックプロジェクト」を始めました。その第一歩としてベルマークを集めて買ったカラーカプセルにオリジナルのおもちゃを入れ、「ガチャ」で販売することにしました。販売場所を提供してくれたのがアリオ橋本店で、2023年1月にはガチャ設置式も実施しました。

ここまでは2023年6月号のベルマーク新聞でお伝えしました。

ここからは、その後日談です。

おもちゃの販売の成功で自信をつけた児童たちは、その後も地元の企業にプレ

ゼンに回り、協力の輪が広がりました。アスレチックは無事完成し、2023年9月に企業の関係者らも招待し、完成を祝いました。

学校を訪れると、全長約28m、高さ3.3mの立派なアスレチックが校庭で存在感を放っていました。佐藤美佳校長は「すべてはベルマークから始まりました」と感慨深そうに話してくれました。

2023年6月号の新聞も
ぜひ読んでみてね



理科準備室に冷蔵庫を

宮城・東松島市立大曲小から感謝メッセージ

児童の表情と手つきから、氷の冷たさが伝わってくるような写真が届きました。宮城県東松島市の市立大曲小学校(酒井勝則校長、児童271人)から届いた写真です。2024年度の東日本大震災被災校支援の対象校で、冷蔵庫や台車、LED点滅指示灯などの備品を希望しました。

新しい冷蔵庫を置いた場所は理科準備室。冷凍室と冷蔵室に分かれている2ドアタイプです。木村亘教頭によると、今まで使っていた理科の学習用の冷蔵庫が故障していたそうです。「実験のため、冷蔵庫に土などを入れることもあり、保健室や家庭科室と共通のものを使うことはできません」と木村教頭。実験で使う氷を取り出

している場面を写真に収めてくれました。

東日本大震災では津波による甚大な被害を受けた東松島市。海から約2kmの距離にある大曲小学校の校庭や校舎の1階にも津波が押し寄せました。

現在小学校に通う児童は震災当時のことを知らない世代です。総合的な学習では全学年が防災について学んでいますが、今年度は3・4年生が震災を経験した地域の方による防災講話の授業を受けました。赤ちゃんを水面上に高くあげながら助けを求めた話、自分の家を貸して助け合いながら過ごした話などを聞いたり、被災したときの写真を見せてもらったりしたそうです。



冷凍室からつめたい氷を取り出す児童